



# 千葉科学大学

連携自治体：千葉県銚子市

## 事業名：「防災・郷土教育を積み上げた、人に優しく安心して住める地域創り」

### 事業の概要・目的

#### (地域の課題)

#### 連携自治体の課題(平成26年度申請時点)

#### 千葉県銚子市

- 当市には魅力的な資源が多く存在するが、地域住民・企業等がその恩恵(豊かな自然や誇るべき歴史等)の価値と、地域全体に影響を及ぼす脅威(地震・津波等の自然災害)の危険性に明確には気づいていないこと

#### (課題解決のための大学の取組)

- 防災教育と郷土教育を積み上げ、自治体と連携して人が安心して住める地域を創るために、地域の自然・環境や歴史・伝統・産業などの恩恵を知り学ぶ、地域志向の科目を開講することによって、学生の地域社会とのコミュニケーション力を育成し、「地育地就」を進めること

- 学部教育
- 全学必修科目「銚子学」の新設
  - 選択科目「プロジェクト学習」の設置

- 地域教育
- 防災士資格取得者(市民)と連携した町内会単位の避難計画策定
  - 銚子市教育委員会主導で小中学校教員対象のジオパークを利用した郷土教育講習会等を開催
  - 市内高等学校において、防災・郷土教育に関する授業協力の推進

### 人材育成の取組

#### (人材育成像)

- 本学特有の「人にやさしいコミュニケーション力」を身に付け、地域で市民と企業、医療専門家等との間で仲立ちとなって働く人材を育成する

#### 課題に対する大学の取組

	26年度 (申請時)	27年度 (予定)	30年度(最終年度) (目標値)
地域志向教育科目を履修する学生数	180人	380人	640人
地域志向の研究テーマ数(卒業研究)	6件	10件	30件

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

- 地域社会の「恩恵」と「脅威」を学ぶ「銚子学」を1年次の必修科目として新設する
- 2・3年次では選択科目として「プロジェクト学習」を新設し、自治体・企業・地域社会等と連携したグループ学習を実施
- 4年次の「卒業研究」では個人で地域の課題の発見・解決するための活動を行う
- 「ジオサイト見学」、「ボランティア活動」、「まち歩き」等のフィールドワークを通じて、地域の魅力・課題発見学習を実施する

#### (現在の取組)

- 平成27年度からの「銚子学」をまず選択科目として導入するために準備中
- 「プロジェクト学習」開講に向けて地域と連携した活動実績がある学生を巻き込んだリアル活動の実施
- 地域住民のための防災士養成講座を開催し、認定された防災士や市と連携した地域防災の実行組織を発進する

#### 事例1

- 「エクステンションセンターの設置」  
市民・学生・教員が交流しながら学ぶプラットフォームとして銚子市の中心部に千葉科学大学エクステンションセンターを開設  
さらに、市が運営する銚子ジオパークガイドセンターを併設して観光客への情報発信も行う

#### 事例2

- 「学生ボランティアセンターの設置」  
社会に貢献しながら学ぶ体制を確立するために、学生団体や一般学生にボランティアや地域貢献に関する情報を流し参加する仕組みを整備し、円滑なボランティア活動を実施する

#### 事例3

- 「地域志向教育研究の選定」  
プロジェクト学習開講に向けて地域に関係する研究成果が地域志向の新設科目を増加させるよう採択

#### (卒業後の学生のイメージ)

- ① 知育地就効果より、地元企業や医療機関、公務員などに就職し、本学と連携したワーキンググループ構成員等として情報を共有し、地域活性化に貢献。更なる地就に繋げていく人材
- ② 地元の資産である「銚子ジオパーク」を活用し、防災教育等を加えたあたたかな観光資源を開発していく自治体職員や観光業の担当者

	1年次	2・3年次	4年次
COEコア科目	銚子学 ⇒		
地域に関する科目		プロジェクト学習	
専門科目	⇒	⇒	卒業研究

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

##### 「銚子学」

- 銚子市の防災まちづくりに合致した防災教育と郷土教育の両輪を行うことで、本地域の課題解決を目指すことができる。そのため座学6コマと実習4コマを1年次に全学部共通でおこなう

##### 「プロジェクト学習」

- 選択科目として、グループ単位で地域の課題を実際に解決するために1年を通して取り組む

##### 「卒業研究」

- 4年次の「卒業研究」では個人で、地域の課題発見・解決の活動に取り組み、地域と積極的に交流しながら、人にやさしいコミュニケーション能力を身に着け、地域の再生・活性化を目指す

### 関東最東端からの挑戦～地域の宝を磨き上げる～



千葉県銚子市  
市長

越川 信一

少子高齢化と人口減少が急速に進み、マチの元気が失われつつある中、千葉科学大学の提案事業が採択されたことを大変嬉しく思います。本市には、自然、歴史、文化、そしてそれらを育んできた人、豊富な地域資源があります。今回のCOE事業ではこれらの地域資源に大学のもつ“知”という新たな地域資源を加え、経済界・産業界・市民団体も巻き込んだオール銚子の体制で、この“地”の資源を磨き上げ、『防災・郷土教育を積み上げた、人に優しく安心して住める地域創り』を進めたいと思います。

### 銚子市の魅力を生かした防災まちづくり・ひとづくり



千葉科学大学  
危機管理学部危機管理システム学科3年次

小林 新生

私は危機管理システム学科に所属し、防災全般について学ぶとともに、学内の防災ボランティアサークルの代表として、地域に向向いてさまざまな防災活動に取り組んできました。その中で、銚子の自然の豊かさや歴史・文化の深さを肌で感じ、地域の方々との交流を通じて、さらに防災活動に取り組む意欲が高まりました。今後は、これらの経験を踏まえて、銚子市の魅力を生かしながら、地域が抱える防災上の課題解決に取り組んでいきたいと思っています。